

今後の議論の進め方について

国土交通省 政策統括官付
情報活用推進課
2023年11月

- 第1回でいただいたご意見について、位置付け、ニーズ、整備、提供方法、評価、その他に分類して整理。
- 特にニーズ収集・整理、データ整備・提供における「しくみ」が不足していると認識。

国土数値情報の位置づけに関するご意見

- ・国全体、もしくは三大都市圏など広域の大まかな情報を網羅できるものとしての位置づけが前提になるのでは
- ・提供範囲という視点でのポジションの違いも主張できる
- ・ポジションをはっきり再定義すべき
- ・元々公共が持っているデータを対象にすべき
- ・既にGISデータを整備している団体との関係も整理する必要がある
- ・コストの論理だけではなく、それ以外の線引きが大事
- ・国がやらないといけないものは何かを考えた方が早い。

ニーズに関するご意見

- ・ニーズを把握すればするほど情報は正確で最新で細かくとなる
- ・ユーザーニーズは移ろいやすい
- ・ニーズや要望を可視化するしくみがあると良い
- ・数年（2～3年）程度かけて特に今後開拓が必要な分野やデータの関係者と直接対話できる場があると良い
- ・マーケットインの考え方の方が良い
- ・マーケットインの考え方の場合、公平性には留意が必要

整備に関するご意見

- ・バグやデータエラーがあった際にフィードバックするしくみがあるとよい
- ・データが（半）自動的に集まるしくみも考える必要がある
- ・自治体から「提出させる」という枠組みが必要
- ・トライするデータと安定的に出すデータの2種類があっても良い
- ・均質で統一的な作成ルールが必要
- ・必要に応じ（ユーザー等で）ベクトルデータにするということもありでは
- ・自動判読のコンペなどがあると、実用化に向けて良い

提供方法に関するご意見

- ・そもそも役所内でGISデータをQGISなどで使えるような環境整備が必要
- ・一括ダウンロードなど、ダウンロードのしくみをもっと工夫すると良い
- ・一部地域限定など、データをお試しで使えるような仕組みがあると良い
- ・公開をためらうデータがある。国が先導してほしい
- ・G空間センターを有効活用するとよい
- ・省内や関係機関からのデータ公開の受け皿をどのように作るかが重要

評価に関するご意見

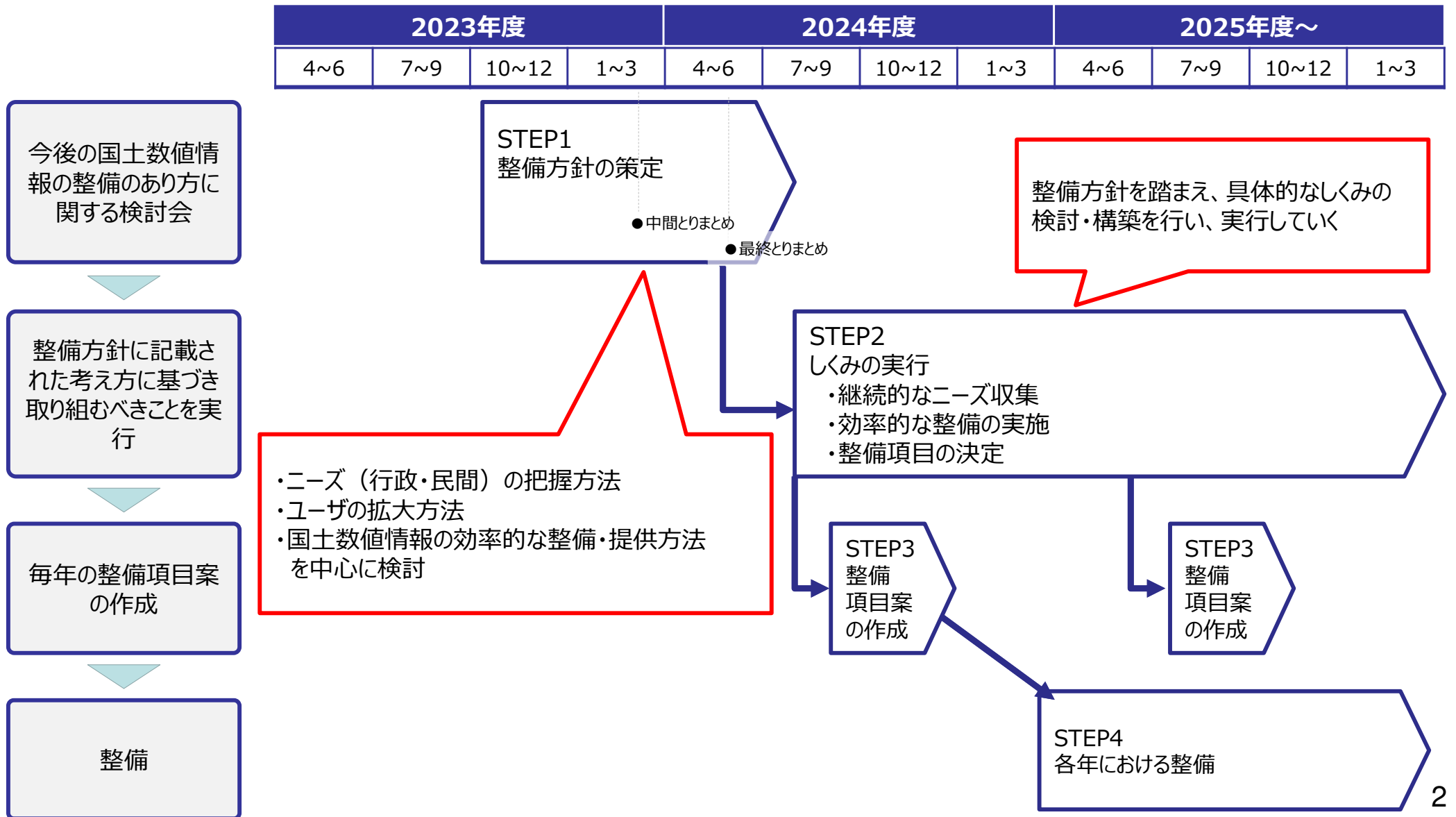
- ・KPIの話があったが、設定はそぐわない
- ・こういう情報は公開されていることに意義がある
- ・KPIというよりもロードマップ（どのようなデータを何年かけて更新するかなど）があると良い

その他ご意見

- ・「データコンペ」を実施してはどうか
- ・コンペに関しても一過性（コミュニティとして育たない）にならないようなしくみ自体も要検討

今後の整備方針策定と実行のスケジュール(案)

- 本検討会で議論する整備方針を具体の整備項目に反映させていくしくみが必要。
- ニーズ把握などを継続的に進め、毎年度の国土数値情報の整備項目につなげていく。



検討会での具体的な論点 (案)	検討の方向性 (案)
<p>1. ニーズ (行政・民間) の把握 <どの情報を整備するか、それをどう決めるか></p> <p>① 行政・民間のニーズ・シーズ把握</p> <p>② 利用者からのフィードバック</p> <p>③ 取捨選択の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「行政」「民間」の潜在的・顕在的ニーズの把握方法 →ラウンドテーブル開催、アンケートの工夫など ・整備対象の取捨選択の判断基準 →重要性、継続性、汎用性など ・利用者からのフィードバックのしくみ →活用事例収集、エラーの指摘など
<p>2. ユーザーの拡大 <どう広げるか></p> <p>① 教育分野</p> <p>② データサイエンティスト等</p> <p>③ 効果的な情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者層の獲得方法 →データ活用コンペの実施など ・新たな分野の利用者に向けたデータ提供方法 →教育関係者、データサイエンティスト等へのデータ提供手法など ・データ整備内容の効果的な情報発信の手段、方法 →利活用事例の紹介、整備項目のプレスリリースなど
<p>3. 国土数値情報の効率的な整備手法・提供方法 <整備する情報をどう作り、どう提供するか></p> <p>① 効率的な整備手法</p> <p>② 整備したデータの提供方法等の環境整備</p> <p>③ 他のデータによる代替可能性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な整備手法 <ul style="list-style-type: none"> ・パターン①：住所文字列・紙図面→GISデータ作成 →パターン②への移行を進める（GISデータを提供してもらうようにする）ために実施すべきこと ・パターン②：自治体等から提供されたGISデータを原典として利用→加工・検査 →提供されるデータの質の向上のために実施すべきこと ・パターン③：新規GISデータ作成 →AI利用等による省力化の推進 ・整備したデータの提供方法 →ファイル形式の検討、ダウンロード方法の工夫、API配信など ・他のデータによる代替の考え方 →品質、整備範囲などをどこまで許容するか

【令和5年度】

- 第1回 (10月30日(月))
 - ・国土数値情報の現状、取り巻く環境、論点の提示及び意見交換
(論点)
 - ・国土数値情報を取り巻く環境変化への対応
 - ・国土数値情報の利活用に関する方向性
 - ・国土数値情報の整備・マネジメントに関する方向性
 - ・国が整備する意義・目的
- 第2回 (本日：11月17日(金) 18:00～20:00)
 - ・ゲストスピーカーからの話題提供及び意見交換
 - ・都市・交通分野：計量計画研究所 牧村 和彦様
 - ・教育分野：東京カートグラフィック 石川 泰正様
 - ・ビジネス分野：ディー・フォー・ディー・アール
藤元 健太郎様
- 第3回 (12月12日(火) 10:00～12:00)
 - ・ゲストスピーカーからの話題提供及び意見交換
 - ・不動産分野：不動産テック協会 滝沢 潔様
 - ・シビックテック分野：青山学院大学 古橋 大地様
 - ・論点1 (ニーズ把握) 2 (ユーザーの拡大) に関する議論
- 第4回 (1～2月)
 - ・論点3 (国土数値情報の効率的な整備手法・提供方法) に関する議論

- 第5回 (2～3月)
 - ・整備方針 (中間とりまとめ案) の提示及び議論、整理

【令和6年度】

- 第6回 (4～5月)
 - ・整備方針 (案) の提示及び議論
- 第7回 (6～7月)
 - ・整備方針とりまとめ
 - ・構築すべきしくみについての議論